科目ナンバリング	U-LAS55 10001 SB31

授業科目名 <英訳>	多文化教養演習 ：見・聞・知@京都「受容から発信 へ」 Seminar for Multicultural Studies : Watch, Listen and Learn @ Kyoto - From Accepting Various Cultures to Transmitting Your Own.	担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 教授　河合　淳子 国際高等教育院 准教授　韓　立友 国際高等教育院 特定准教授 若松　文貴 国際高等教育院 講師　河内　彩香

群	キャリア形成科目群	分野(分類)	多文化理解	使用言語	日本語及び英語

旧群		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）

開講年度・ 開講期	2026・ 前期集中	曜時限	集中 未定	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本授業は、京都大学が実施する「多文化共学短期[受入れ]留学プログラム（通称：京都サマープログラム）」を核とする本学学生対象の授業である。
本演習の目的は、ここ京都大学において、世界中から多様な学生が集う環境の下、本学の学風および先端研究に触れること、日本社会の課題、伝統、文化、経済等の理解を深めると共に様々なアプローチを学ぶこと、そして、これにより今後のさらなる国際的活動への礎を築くことである。
具体的には、本学大学間学生交流協定校・学術交流協定校から海外学生を受入れ、彼らと共に（１）学術講義、（２）日本語教授実習、（３）本学学生との共同学習・討論会、（４）実地研修を行う。

特徴は４点ある。（a）多様性の重視：東アジア、ASEAN, 欧州、アフリカ、北米の20を超える大学から、専門を問わず海外学生を受入れ、本学学生との共学の場を提供する。これほど多様な背景を持つ学生が一堂に会する短期プログラムは、世界に類を見ない。(b)「対話」を通じたアプローチ：教員－学生間、学生－学生間の「対話」を通じ、多様な学問領域を扱う。特に、対象を捉え、問題に取組むアプローチの習得に重点を置く。議論の場では、様々な意見を受止め、展開する。（c）地域に根差したプログラム：伝統と創造が共存する土地柄を生かし、文化体験や企業訪問を行う。（d）学生主体：教員の監督下で企画・運営に本学学生が携わり、運営力・リーダーシップを涵養する。

[到達目標]

１）各国・地域の文化および社会状況、さらには日本文化、日本社会の状況についてのより深い理解。
２）理系トピックを含む、学際的アプローチへの関心と理解。
３）多様な文化的背景を持つ学生が共に学ぶことへの関心。意見交換や合意形成の技能。
４）日本語教授の経験、それを通しての日本の文化・社会への理解。
５）学外研修・文化体験を通して、実体験に基づく日本文化、社会状況、日本的組織の特徴等への理解。
６）研究室訪問による最先端の研究動向に触れることによる、学生個々の進路の選択肢の拡大。
７）討論会準備、学外研修の企画、文化体験の計画を行うことによる、企画力、リーダーシップの涵養。

[授業計画と内容]

当プログラムには別途申し込みをする必要がある。
募集要項・時間割・講義一覧の準備が整い次第、KULASIS上などで案内する。

■プログラム内容
１.7月中旬～8月上旬：京都サマープログラム（於、京都大学）

多文化教養演習 ：見・聞・知@京都「受容から発信 へ」(2)へ続く↓↓↓

（１)学術講義
学際的なプログラムを象徴する講義群を海外学生と共に学ぶ。

以下は2026年度：
提供言語（English/Japanese）、キーワード、「講義タイトル」、（講師氏名）
① English ジェンダー「政治論争になった女性の姓―夫婦同姓は日本の伝統か？」（落合恵美子）
② English 動物研究学「動物に学ぶ：比較認知科学への招待」（高潔）
③ English 日本古典学文学「日本古典文学に見る日本人の美意識」（湯川志貴子）
④ English 食糧問題「持続的食料生産のために農畜水産業の問題を知ろう」（近藤直）
⑤ Japanese 社会言語学「漢字および漢字文化受容の諸相について」（家本太郎）
⑥ English 文化政治学「日本の捕鯨：食と保護を巡る文化政治学」（若松文貴）
⑦ English 建築学「伝統的日本家屋の持続性」（鈴木あるの）
⑧ English 科学技術学「気体の時代の科学技術―「かすみ（水蒸気、空気）」を食って生きることは可能か？―（北川進）
⑨ English 社会学「福祉とレジームと移住労働者」（安里和晃）
⑩ English 数学「紙一枚からの工学」（時枝正）

日本の社会課題を扱う講義、日本の文化や歴史に関する講義、本学独特の学問分野に触れつつ学際的な視点が得られる講義で構成される。専門外の内容やアプローチに触れることで専門における学修・研究の刺激となり得る内容となっている。

（２）日本語教授準備及び実習
日本語教授に関する準備講座を受講後、海外学生が学ぶ日本語学習科目において、日本語教授実習を行う。これにより、本学学生は、言語教育方法のスキルに触れ、その習得への端緒となる経験を積むとともに、自分自身が身につけてきた言語を客観的に捉え、日本文化や日本社会への理解を深める。

（３)共同学習・討論会・最終発表
参加学生は、海外学生との共同学習を通して準備を行い、様々なテーマについて討論会を行う。最終発表は、ILASサブプログラムでは海外学生による個人発表に対する質疑を英語で行う。KUASUサブプログラムでは本学学生と留学生合同で編成されたグループにより日本語で行う。

（４) 実地研修・文化体験
地元企業や各種組織の協力を得て、実体験に基づいて（１）で学んだ点を確認し、日本文化、社会状況、日本的組織の特徴等への理解を深める。過去の実施例は、西陣織、京菓子（伝統の保全とイノベーション）、滋賀県立大学による研修（湖水環境、琵琶湖湖上実習）などがある。

■本学学生向けスケジュール（上記 本学学生向け受講申込み を確認のこと。）
・本学学生向けオリエンテーション　6月下旬～7月上旬に開催
（内、１回出席必須）
・日本語教授準備講座①～③（内、１回出席必須）　7月上旬に開催

京都サマープログラム　2026年7月23日～8月7日
7月23日：キックオフ集会（試験期間と重なるため、自由参加）
7月24日：海外学生向けオリエンテーション、キャンパスツアー（試験期間と重なるため、自由参加）
7月25日：京大紹介、学術講義①、日本語教授実習①

多文化教養演習 ：見・聞・知@京都「受容から発信へ」(3)へ続く↓↓↓

7月26日：学生企画①
7月27日：議論・発表準備①②、日本語教授実習②、研究室訪問、研究科紹介＆ミニ講座①（いずれかの日程で開催）（試験期間と重なるため、自由参加）
7月28日：主として海外学生を対象とした学外研修（終日）（試験期間と重なるため、自由参加）
7月29日：議論・発表準備③、日本語教授実習③、日本語で話そう①、京大紹介、研究科紹介＆ミニ講座①（いずれかの日程で開催）（試験期間と重なるため、自由参加）
7月30日：議論・発表準備④、学術講義②③、日本語で話そう②、日本語教授実習④
7月31日：議論・発表準備⑤、日本語教授実習⑤、学術講義④、日本語で話そう③
8月1日：議論・発表準備⑥、学術講義⑤⑥、日本語教授実習⑥
8日2日：学生企画②
8月3日：議論・発表準備⑦、学術講義⑦⑧、日本語教授実習⑦
8月4日：学外研修（終日）
8月5日：議論・発表準備⑧、学術講義⑨⑩、日本語教授実習⑧⑨
8月6日：日本語で話そう④、発表準備①、討論会（必修）
8月7日：発表準備②、最終発表会（必修）、修了式

２．最終レポート提出

[履修要件]

全学共通科目「日本語・日本文化演習」を受講した上での参加を推奨する。

[成績評価の方法・観点]

●出席・参加態度30%、小レポート10%（日本語教授準備講座・実習又は学外研修・文化体験等）、討論会への貢献30%、最終レポート30%。
●必修活動を含む、合計40時間以上の参加者を評価対象とする。必修活動とは、本学学生向けオリエンテーション２sessionの内１session（1時間）、日本語教授準備講座３sessionの内１session(1時間)、学術講義10コマの内6コマ、大学紹介２コマの内１コマ、討論会（10日目）、最終発表会（11日目）である。必修活動の多くは、土曜日並びに試験期間後に実施される。ただし、本プログラムの各種活動がフィードバック期間と重なっていることに留意し、受講計画を立てること。

[教科書]

プログラム講義内、オリエンテーション等で指示する。

[参考書等]

（参考書）
プログラム講義内、オリエンテーション等で指示する。

（関連ＵＲＬ）

https://forms.gle/aMbPGSVGUfqnGwbGA(本学学生向け受講申込み「京都サマープログラム2026」 - Google フォーム（募集開始後、募集要項・時間割・講義一覧は上記google formより閲覧可能となる。)
https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/summer-spring-program/(京都サマープログラム　ホームページ)

[授業外学修（予習・復習）等]

受講する講義で指定される文献を読んでおくこと。

多文化教養演習 ：見・聞・知@京都「受容から発信へ」(4)へ続く↓↓↓

多文化教養演習 ：見・聞・知@京都「受容から発信へ」(4)

[その他（オフィスアワー等）]

・必要な教科書、保険、費用等についてはオリエンテーションで説明します。
・本科目は採点報告日以降に実施するため成績報告が遅れます。

[主要授業科目（学部・学科名）]